

研修参加報告書

平成31年 2月 1日

会 派 名 リフォームの会
会派代表者 中野 裕二

(参加者：中野 裕二)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	平成 31年 1月 31日 (木曜日)
研修時間	13:30~16:00
研修場所	図書館流通センター本社ホール
研修内容	TRCセミナー「人口減少時代の都市経営 ~首都周辺を含む 地方都市の生き残り戦略~」 (講師：京都大学 大学院経済研究科・地球環境学堂 教授 諸富 徹氏)

研修参加報告書

年月日	平成 31年 1月 31日 (木曜日)
研修時間	13:30~16:00
研修場所	図書館流通センター本社ホール
研修内容	TRCセミナー「人口減少時代の都市経営 ~首都周辺を含む 地方都市の生き残り戦略~」 (講師: 諸富 徹氏)
■目的 江南市も人口減少時代に突入しており、今後、人口減少時代にどう運営していくのか、先進事例を学び活かしていくため。	
■内容 ＜人口減少都市の将来＞ <ul style="list-style-type: none">・年々、人口が減少する事により、市県民税、固定資産税等の歳入に関しては減収するが、歳出に関しては、民生費、社会資本等の維持費は増大していく。・建設後 50 年を経過する施設の割合としては、2030 年を境に道路橋・トンネル・河川管理施設等の維持管理費は 2025 年をピークに伸びていくが、更新費に関しては現状と同等の物にしても 2050 年まで伸びていく。・歴史から学ぶ上で大阪市 関一の都市経営から学ぶ事が出来る。 都市インフラを市営事業化し、得られた収益を社会政策、公益事業の推進に活用し、この難局を乗り切った。 <p>「成長型」都市経営から「成熟型」都市経営に移行している。そうなると働き手不足、空き家の増加、郊外住宅価格の下落が起こる。都市のスポンジ化を意味する。こういった課題に対しては、都市のコンパクト化を図り、都市の経済活動の密度を維持しつつ、社会インフラを効率利用し、財政を健全に保つようにする。</p> ＜都市のスポンジ化として（松江市、宮崎市）の事例を紹介＞ <ul style="list-style-type: none">・コンパクトシティの成功事例として、富山市を紹介。コンパクトシティでの成功事例は極端に少なく長期スパンでの実行、市民への粘り強い説明が必要不可欠になる。富山市では年間 300 カ所ほどの説明会を実行した。・ドイツのシュタットベルケとは、自治体が出資する公益事業体の意味で、エネルギー・インフラ等の事業を展開しているケースが多い。・日本版のシュタットベルケとしては、福岡県のみやま市が紹介されていた。	

■所感

今後、超・少子高齢化と人口減少が一段と加速し、その影響が社会各面で顕著となることが予想されています。そうした中で、社会保障経費・社会更新経費の増大、人口減少と経済縮小による税収の減少、この両者に挟撃される江南市が発展し続けていくためには何が必要か。歳出を抑制し、歳入をどう増大させるか。

そこで、今回の研修ではコンパクトシティを展開し、抑制し、シュタットベルケで歳入を増大させる事を紹介された。江南市でも、人口減少時代に向けてのより一層の取り組みが必要となる。